

令和3年度

男女共同参画
宣言都市事業

男女共同参画に関する作品

入賞作品集

一行詩部門&写真部門

男女共同参画都市宣言

社会のあらゆる場で 男女の人権は 互いに尊重されることが必要です
私たち山形市民は 真のパートナーシップの実現を目指し
さまざまな分野に 男女が平等に参画できる社会を創ります
次代を担う子どもたちに ともに信頼し支え合う大切さを伝え
市民一人ひとりが 力強く歩み続けることを誓い
ここに 山形市は 男女共同参画都市の宣言をします

平成10年9月 山形市

入賞作品 総評

井上 榮子 審査員代表(山形市男女共同参画審議会会長 山形大学工学部産学連携准教授)

昨年度は新型コロナの影響により作品募集がなくなり、20回目の今年は再開することができました。今年度の応募作品は、一行詩部門の大学・一般の部で272作品、中学・高校の部で1,614作品、写真部門で15作品でした。これまで同様に多数の作品をお寄せいただいたことに感謝し、入賞者の皆様にお祝いを申し上げます。コロナ禍はテレワークなどの新しい生活様式を生み出すとともに、雇用や家事・育児負担の不平等などの問題を顕在化させました。作品においても、個性の尊重、性別役割、多様性などに関する作品とともに、テレワークで家族と過ごす時間が増える中で生まれた作品が見られました。一行詩の中に、「女性が増えれば、視点が変わる」という作品がありますが、日本の男女共同参画の遅れを変えるために必要なことだと思います。また、「一行詩、どんなことを書こうかな」と考えることが未来をつくるという作品もあり、心に残りました。作品募集が来年度以降も続いていきますように、皆様のご協力をよろしくお祈りします。

佐藤 孝弘 山形市長

山形市では、平成10年9月に県内初、全国で14番目となる「男女共同参画都市宣言」を行い、平成25年3月には男女共同参画推進条例を制定しております。男女が様々な分野にともに参画し、その個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画のまち山形」の実現に向け、様々な事業に取り組んでまいりました。

こうした取り組みの一環として、男女共同参画に関する作品の募集を平成13年度から毎年実施しております。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策による休校等の影響を鑑み、中止させていただいたことから、今回で20回目の開催となります。例年同様幅広い年代から数多くの作品をお寄せいただき、ご応募いただいた皆様方、また学校関係者の方々に対し、心より感謝を申し上げます。

このたびの入賞作品は、夫婦の共同作業や男性が家事に参画する日常、女性活躍推進、多様性を認め合える社会づくりへの想いのほか、家族みんなで家事をする喜びといったコロナ禍で在宅時間が増えたことによって気付くことができたこと等、表現される内容やテーマが多岐にわたっております。いずれの作品も、山形市における男女共同参画に対する意識の高まりを強く実感するものであり、大変嬉しく感じております。

こうした作品を通して、市民の皆様の男女共同参画に対する理解がさらに深まり、性別にとらわれず誰もが個性と能力を発揮できる「男女共同参画のまち山形」の実現に着実に繋がっていくことを願っております。

審査員一覧

(順不同、敬称略)

山形市男女共同参画審議会会長 山形大学工学部産学連携准教授
山形市男女共同参画審議会委員 山形市立東沢小学校校長
山形市男女共同参画運営委員会 山形市女性団体連絡協議会
山形市写真連盟会長
山形市企画調整部長
山形市企画調整部男女共同参画センター所長

井上 榮子
武田 喜好
横尾 峰子
軽部治悠紀
畑口 和久
草苺 早苗

発行/令和3年10月 編集/山形市企画調整部男女共同参画センター 山形市城西町二丁目2番22号 TEL.023-645-8077

写真部門 (応募総数15作品)



最優秀賞

“はい！きいつけで！
男女共同参画は、
すべだのこべだの理屈より、
あんたへの思いやりなんだず！”

板垣 玲子(山形市在勤)

散歩中、田植えの時期の村山で撮りました。コロナ禍で1年以上熟成させておいた写真です。お互いに相手を思いやり、認め合い、相手を必要とすること(尊重すること)が、共同参画の第1歩だと思います。

審査員からのコメント

夫婦の息の合った作業のスナップは定番ではありますが、テーマに沿ってわかりやすい被写体と言えます。スマホで撮ったと思いますが奥行もあり軽やかなフットワークの撮影の良さが出ています。

軽部治悠紀 審査員

優秀賞

猫と父
(掃除はお父さんの担当にゃ♪)

沼沢 杏月(久保田)



掃除をする父親とそれを見守る猫を撮りました

入選



やりたいことに
まっすぐ進め！

木村 美優紀
(下条)

6歳の長女は空手を習っています。周りは男の子ばかりで心配でしたが、本人が「男の子とか女の子とか関係なく、やりたいからやるの！」と言ったことに、私がはっとしてしまいました。「自分がやりたいこと」にまっすぐ進む娘をこれからも応援したいと思います。

入選



ひとときのしあわせ

渡辺 和哉
(沼木)

稲刈り作業の休憩時、仲の良い夫婦に子供も満面のほほえみでした。

入選



天秤

安彦 嘉恋
加藤 くるみ
加藤 智視
櫻井 健太郎
武田 梯知
(山大附属中)

男子と女子が平等になっていることを表現した。

一行詩部門

大学・一般の部
(応募総数272作品)

最優秀賞

女性が増えれば、視点が変わり
視点が変われば、現状を変えることができる。
佐々木 優衣(山形大学)

入選

男か女か
2つしか選択肢がないなんてもったいない
人の数だけ
選択肢がある世の中になってほしい
工藤 千聖(東北文科大学)

入選

自分がされたら嫌なことを
なぜ、「女性」になら
大丈夫だと考えるのだろう
なぜ、「女性」がされて
どう思うか考えないんだろう
幸田 真樹(山形大学)

入選

男だから、女だから
そんなことを言わないで
自由に自分らしく
生きていく権利が私にある
菅井 玲菜(山形大学)

入選

パパは自分の子供を育てれば
『イクメン』と褒められるけど、
ママは自分の子供を育てても
『当たり前だ』と褒められず……。
パパもママも頑張っているなら
2人も褒めてあげなくちゃ。
富岡 千夏(山形大学)

入選

私のパパは、料理は作るし、
そうじもする。当たり前のことだよって。
男だからって仕事だけじゃないよって。
そんなパパだから、私はパパみたいな人
と結婚したい。
佐藤 百華(商業高3年)

佳作

協力し、支え合い
できる家族の輪
池田 心泉(第五中3年)

佳作

「男だから……」「女だから……」
それは当たり前じゃない
自分の個性と能力を発揮する
喜びや責任を分かち合う
そんな社会をつくらなきゃ
山口 涼(第六中1年)

佳作

あなたの「色」は何色ですか。
女の子は桃色？
男の子は青色？
いいえ。色は人の数だけあるのです。
自分だけのキャンパスを
「自分色」に染めていこう。
五十嵐 雛(商業高1年)

佳作

母がいない日
父と僕二人で家事をやった。
たった一日の出来事
そんな二人とも疲労困憊
母の偉大さを知った日だった。
永井 尊(商業高1年)

佳作

『性』とは何だ？
『性』別？それもあるけど、『性』とは
個『性』というとても素敵なものだよ。
前田 悠吾(商業高1年)

佳作

地域活動、性別関係なく
その地域に住む全ての人が
参加対象です。
齋藤 愛香(商業高2年)

佳作

僕は家庭科が得意になりたい。
だって将来役に立つから。
齋藤 郁弥(商業高2年)

佳作

性別の選択欄、必要な
履歴書も試験も
女じゃないと就職できない？
男じゃないと合格できない？
性別の枠をなくして、
一人ひとりのスキルを見て！
片山 七海(商業高3年)

一行詩部門

中学・高校の部
(応募総数1,614作品)

最優秀賞

リモートワーク
家族みんなでお家にいるから
一緒に料理、掃除、洗濯
たくさんの家事ができる
こんな時代嫌だったけど
嬉しいこと、見つけられた。
杉沼 葉月(商業高3年)

審査員からのコメント

コロナ禍の時代を反映した秀作である。暗くながちな
現状の中、プラス思考で進もうという明るく前向きな姿
勢が伺える。家族共同の姿が具体的に見えるようである。
これからの家族の姿を表し、共感できる作品である。
武田喜好 審査員

優秀賞

パパとママ一緒に
子育てしましょうよ。
うれしいよ。
今野 茉花(第七中2年)

優秀賞

父と母が並んで料理している姿を毎朝
見る。
「ありがとう。」の声が聞こえてくる。
感謝を忘れず、協力し合うことって
素敵なことだと思う。
森谷 奏来(商業高2年)

優秀賞

家事をする父と働く母
どちらも「好き」を仕事にしてる
男とか女とか関係なく
「好き」を生かすって素敵だ。
篠永 南細海(山形北高3年)

入選

LGBTQ+
性について人それぞれ
色んな考えがあっていいと思う
そしてその考えが当たり前になる
世の中を願って
大宮 莉桜(第三中3年)

入選

「一行詩、どんな」ことを書くのかな。
そう考えている今が私たちの未来をつ
くっているんだね。
鈴木 美朝(第三中3年)

入選

男か女か
2つしか選択肢がないなんてもったいない
人の数だけ
選択肢がある世の中になってほしい
工藤 千聖(東北文科大学)

入選

「女性の貧困」
コロナ禍で広がる男女格差
能力は性別だけではわからない
個人を尊重できる社会へ変えていこう
色摩 香穂(東北文科大学)

優秀賞

こんな時こそ変えて行こう
こんな時こそ変えられる
君と僕とが支え合う
男女共同参画社会
鈴木 実(上町)

入選

男とか女とか関係なくない？
誰かの「普通」と自分の「普通」は違う
自分がしたいことを、自分がしたいように、
自分の意志で
阿部 瑚々奈(第六中3年)

入選

私は男っぽい服が好きだ。
「男みたい。」「おまえ女じゃないだろ。」
何回も言われた。
女は男の服を着るとおかしいの？
私は好きな物を好きと言えないの？
自分の好きな物を
「好き」と言える世界は
いつできるのだろうか
鈴木 あいら(第七中1年)

入選

やっと、見つけたなりたい職業
「男性なのに」とか「女性なのに」とか
でなりたい職業になれないのは、おかしい。
自分らしさを大切にしてなりたい自分になろう。
古瀬 陽琉(第七中1年)

入選

女だから無理……
男だからダメ……
そんなこと誰が決めた
違うのは性別だけ
「やりたい」「できる」
そう思った人だけが
一歩夢に近づける
川村 羽瑠(第八中3年)

入選

女子力、男らしさより今、
大事なのは周りを受け入れる
「人間力」
伊藤 爽(山大附属中3年)

入選

男はヒトで、女もヒト
どちらも、生まれる確率は
同じだと理科で習いました。
どちらに生まれるか自分では選べないです。
ほら、どちらも対等でしょう？
角田 一樹(山大附属中3年)

入選

「高校を卒業したら男は消防団に入る」
そう言い聞かされて育ってきた。
もし、僕が女性だったら
この地域は守れなかったの？
川嶋 拓海(商業高3年)